

# RACE REPORT

SUPER FORMULA 2021 — P.MU/CERUMO・INGING Race Report

ROUND. **3** オートポリス

予選 **5月15日(土)**

天候：雨 コース状況：ウェット

2020年11月からちょうど半年ぶりのオートポリス開催。今回は季節が真逆の開催で例年の開催の季節に戻った。搬入日の金曜には、ピットの設営などルーティンの仕事に加え、前回の課題の1つのピット作業の確認なども行われた。

#38 坪井 翔 予選5位

#39 阪口 晴南 予選3位



迎えた本日子選日は、九州地方は例年より20日ほど早い梅雨入りの発表があり、それに合わせたかのように朝から雨に見舞われた。この梅雨の時期の開催は、過去に予選や決勝がキャンセルになるなど、予定が大幅に変更された事がある。今回も現地入りする前から悪天候の予報が出ていた為、予選のセッションが行われないことも予想された。その為、フリー走行の順位も予選順位として採用されることも考えられ、フリー走行から緊張感を持って臨んだ。

そのフリー走行は、走り始めこそ雨量は少なかったが、その後は強い雨に見舞われスピンが相次ぐ。阪口もスピンを喫したが、エンストはしなかった為自力でコース復帰し、坪井7番手。阪口11番手で走行を終えた。この午前の時点で、午後の公式予選が40分間の計時方式へと変更の発表がされた。

サーキットのコンテンツのピットビューイングが終わると、サーキット周辺は雨量が増しコンディションがますます悪化して行った。

## ○公式予選

14時50分、ノックアウト方式から、計時方式へと変更された公式予選を迎えた。セッションが始まる前から強い雨が降りしきる。5分ごとに予選のスタートディレイの案内が出るもドライバーはマシンのシートにおさまったまま。当初の予定から、最終的に15時35分まで延長されようやく予選が開始された。

ウェットコンディションでの走行は、公式テスト以外では今季初。コースは水分をたくさん含んでいる為、ところどころにコースを横切る川もでき、容易にスピンする状況。最終コーナー方向は、霧が出ていて視界が不良。予選の組み分けもなくなった為、全車が一齐にコースインというトラフィックも避けられない難しい予選となった。

開始早々に100Rで14号車がクラッシュバリアに突っ込み1回目の赤旗が出た。セッションの中断と共に、雨が上がり霧も晴れる。15時55分走行再開、18台がコースインした。

残り27分、4号車がスピンしコース上に停止した為2回目の赤旗が出る。

車両回収が行われ、再開する頃には雲が薄くなり視界が明るくなった。路面がどんどん良くなっていき、霧も薄くなり再スタート。坪井は、若干セットアップにミスをし、思いのほかタイムを伸ばすことができなかったが、1分38秒757で4番手。

残り21分、5号車がコースアウトしクラッシュした為3回目の赤旗。

坪井4番手、阪口5番手の状況で16時26分走行再開するも雨脚が一気に強まる。

走行再開後、阪口はアウトラップからの翌周、セクター2で全体ベスト、1分38秒511をマークし2番手へ。その後36号車はそのタイムを上回った為、阪口は3番手、坪井は5番手となった。

その後64号車がスピンしクラッシュの為4回目の赤旗。

残り15分32秒でセッションは再開したが、雨量が増し、阪口は1周してピットへ。坪井もピットへ戻り予選を終えた。

サポートレースから、スピンが相次ぎ心配したものの、ピットの位置も味方につけ2人は上位で予選を終えた。坪井も得意なサーキットで非常にポジティブ、阪口はウェットレースが好きだと頼もしい。

明日の決勝は、ぜひ前半の締めくくりとして良いレースにしたい。



## ドライバー #38 坪井 翔

「オートポリスはドライもウェットも調子が良く常にどのカテゴリも上位を走っている良い印象のあるサーキットです。今回はウェットで、朝から良い感触で走っていました。予選はピット位置も良かったので、きちんとアタックが出来、5番手と良い位置につけることができました。今まで予選が10番手付近と下の方だったので良い結果だと思います。ただ、セットアップを失敗してしまいタイヤの一番美味しいところでタイムを上げることが出来なかったなので、そこが少し残念です。明日の天候はいいですけど、絶対チャンスはあると思うので表彰台にしっかり乗れるようがんばります」

## ドライバー #39 阪口 晴南

「ウェットは得意としているので、自信を持って挑みましたが、朝のフリー走行ではオートポリスのウェットの洗礼を受けました。エンジニアとしっかり話し合っ予選に臨んで上位につけることが出来ました。予選上位は同じ世代ばかりで悔しいけれど、僕ら（予選上位3名）が前に来られたのはピットの順番の影響もあったのかもしれないですね。ディレイの連続で、長い間、集中力を切らさないようにするのが大変でした。予選ではフリー走行で遅かったところも改善でき良いグリップが得られました。明日は勝つチャンスがあると思うのでしっかり戦いたいです」



## 監督 立川 祐路

「予選は赤旗の連続でドライバーは集中力を保つことが大変な予選でしたが、良い結果となりました。2台ともウェットのクルマの調子も良さそうです。ニュータイヤを入れるタイミングと天候の読み、ピット位置も良かったですね。上位にいるチームはピットの位置も大きく影響していると思います。前にいるクルマとも、明日は充分勝負ができる雰囲気があるので、勝てるよう頑張ります」

